

そうこうじ 宗光寺

真岡市長沼698

宗光寺は天台宗別格本山のお寺です。宗光寺は平安時代の848年に、慈覚大師円仁が開いたと伝えられています。その後、衰退してしまった時期もありましたが、1190年に鎌倉幕府を開いた源頼朝によって再興されました。その後は、天台宗関東三大寺としてとても栄えます。1351年からは、長沼氏の寺として守られていきますが、長沼氏が戦いに破れたり、福島県に移ったりしたことで、寺も衰退していきます。戦国時代の1589年には下妻城主多賀谷重経によって寺が破壊されますが、江戸時代になると幕府から守られるようになり、1609年には、徳川家康の側近として活躍した慈眼大師天海が宗光寺を再建しています。



慈眼大師像（全水寺所有
撮影 上野訓宏）
宗光寺を復興した慈眼大師
天海は、久下田の全水寺との
関わりもある。



だいもん
大門

江戸時代の1832年に建てられた門。屋根は石の瓦になっています。

しみどう
新御堂

(撮影 上野訓宏)

寺に伝わる話によると、1193年に、源頼朝の願いによって、長沼宗政が建てたといわれています。江戸時代の1833年に大きな修理を行っています。



(撮影 上野訓宏)



(撮影 上野訓宏)

しょうろう 鐘楼

しょうろう 鐘楼は江戸時代の 1832 年に再建されまし
た。古い鐘は、戦争中に国に出してしまっ
たため、現在使用しているものは、昭和 28 年に佐
野でつくられたものです。

やくしによらいざそう 薬師如来坐像

平安時代につくられた仏像です。宗光寺の本尊（最も
大切にしている仏像）となっています。



(撮影 上野訓宏)

宗光寺の『鬼の爪』伝説

室町時代の 1400 年頃、長沼に久左工門という悪人が住んでいました。久左工門は
亡くなったときに宗光寺に葬られることになりました。墓に行く途中、雲の間から鬼
が現れ、遺骸を奪おうとした時、住職が鬼を退治しました。その時の鬼の爪が寺に
保管されています。